

# 地質いしかわ



No.73

2019年  
2月  
発行号

# ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION 2019

いしかわ〈ご当地グルメ〉 南加賀編



加賀市

橋立産加能ガニ



小松市

小松うどん・小松トマト



能美市

加賀丸いも・国造ゆず



川北町

地ビール・六条大麦

## 特別対談

穴水町長／石川 宣雄 × 石川県地質調査業協会会長／尾蔵 博  
「まいもん」あふれる穴水町の新たな魅力をつくる

## 行政のささやき

能登内浦地域の安全・安心の確保と活性化に向けて 主要地方道 能都内浦線 真脇トンネル開通  
ついにオープン!のと里山里海ミュージアム

## シリーズ 「わがまち」

〈能登町〉海、山、祭、いいところいっぱい能登町。  
〈金沢市〉～金沢の建築文化の魅力を発信～



IGS

ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION

一般社団法人 石川県地質調査業協会

〒920-0059 金沢市示野町西7番地  
TEL 076-267-3244 FAX 076-267-3271  
URL <https://www.ishikawa-geo.or.jp>  
E-mail [info@ishikawa-geo.or.jp](mailto:info@ishikawa-geo.or.jp)

# 会長挨拶

CHISHITSU ISHIKAWA No.73

## 第73号 発行に際して

”地質いしかわ“第73号は、ご多忙中にも関わらず、特別対談として穴水町長、石川宣雄氏から、観光や食をいかした町づくり、教育にかける熱い想いについてお話しを伺ったのを初め、多くの方々の格別なご協力によって発刊させて頂いたことと、一言ご挨拶申し上げます。

平素は(社)石川県地質調査業協会ならびに会員各社に対し格別のご指導とご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

日本列島は地質構造が複雑であり、かつ脆弱な地盤から構成されている。また地震、火山噴火、風水害等により地盤災害が多発しており、災害列島とも言われています。

(社)石川県地質調査業協会会員企業は、脆弱でかつ地域の複雑な地形・地質を熟知した地質に関する専門技術者集団として様々な技術を蓄積し、そのノウハウを駆使して社会資本整備や地震、豪雨等による土砂災害に対する防災、減災、土壌・地下水汚染等の環境問題を通して

社会に貢献しています。

また、地域の地質・地盤の様々な現実性、すなわち”地質リスク“を低減することで建設事業の品質確保、建設工事の安全確保、建設コストの増大防止に寄与するため、技術の研鑽を重ね、県民の安全・安心な生活を守るため、より一層の社会貢献をする所存でございます。

関係各位におかれましては、今後とも当協会並びに会員企業に対し一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



一般社団法人  
石川県地質調査業協会  
会長 尾蔵 博  
おぞう ひろし





## 社長のつぶやき

能登鉱山	能登建設株式会社 代表取締役	矢野 好二	24
当社の歩みは、 門前とともに。	宮下建設株式会社 代表取締役	越渡 伸廣	25

## Free Talk フリートーク

国民の命を救う 救難隊の活動	株式会社石川地質コンサルタンツ	数左 従光	26
読書の魅力	株式会社日研技術	濱田 修平	27
釣り場紹介	北海技建株式会社	木村 康	28

## 協会ニュース

労働安全衛生特別講習会	29
安全パトロール	30
担い手確保・育成推進事業 石の標本づくり in 白山手取川ジオパーク	31
技術講演会	32
経営者研修会	33

## 編集後記

編集後記	38
------	----

## 会長挨拶

第73号 発刊に際して  
(一社)石川県地質調査業協会 会長 尾蔵 博 ..... 01

## 特別対談

〈穴水町〉「まいもん」あふれる穴水町の  
新たな魅力をつくる  
穴水町長 石川 宣雄 ..... 04  
(一社)石川県地質調査業協会 会長 尾蔵 博

## 行政のささやき

能登内浦地域の安全・安心の確保と活性化に向けて  
主要地方道 能都内浦線 真脇トンネル開通  
石川県奥能登土木総合事務所 道路建設課長 佐野 雅幸 ..... 12  
ついにオープン!  
のと里山里海ミュージアム  
のと里山里海ミュージアム館長 和田 学 ..... 16

## シリーズ「わがまち」

「能登町」 海、山、祭、いいとこいっぱい能登町。  
能登町ふるさと振興課係長 蓑島 真吾 ..... 20  
「金沢市」 ～金沢の建築文化の魅力を発信～  
金沢市経済局営業戦略部 観光政策課 課長補佐 小川 晶子 ..... 22





(一社)石川県地質調査業協会  
会長  
おぞう ひろし  
尾蔵 博

# ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION

能登半島のほぼ中央に位置し、冬のカキまつりには大勢の人で賑わう穴水町。  
穴水町の財政を再建させ、平成 30 年 1 月に 4 選を果たした穴水町長・石川宣雄氏に  
「観光」や「食」をいかした町づくり、教育にける熱い思いなどを伺いました。

町長 人口減少問題ですが、これは穴水だけでなく日本が人口減少時代に入っている訳ですから、全国的な問題だと思えます。少子高齢化によって生産労働者が減り、経済活力が失われる。すると若者の晩婚化がさらに進み、一段と子供の出生率が低下する。悪循環がどんどん続いていくことに

坂下 こちらこそお忙しい所どうもありがとうございます。早速ですが能登では人口減少で苦労されていると思いますが、穴水町で取り組まれていることがあれば教えてください。

町長 今日は穴水町までお越しいただき、どうもありがとうございます。

## Chapter 01

### 都会に出た人が 帰って来やすい故郷に

なるんです。だから穴水のような小さな自治体だけで取り組んでも効果を上げることは難しいです。国を挙げて特別な施策を打たないといけないと思います。穴水町としては、人口の流出を止めるために企業誘致が一つの手段だと思いつきました。しかし残念ながら働く場所があるだけでは若い人が集まってくれないという事が実感として分かってきました。若い人を集めるためには、やはり遊ぶ場所などの魅力がないと駄目なんです。

尾蔵 能登はどこに行ってもそうですよね。若い人たちの遊ぶところが少ない。だから人口流出してしまっているように感じます。

町長 のと里山海道が完全無料化になり、最近では金沢へ遊びに行く若い人たちがけっこうおっています。それでもいいのかなあと思つてます。それともう一つ、都会に出た人達が穴水に帰ってきやすいようにするために、事前に登録してもらいその人たちの元に穴水の企業情報を送るようにしています。それと、どこの市町村でもやっているんですけどいわゆる「ふ



穴水町長  
いしかわ のぶお  
石川 宣雄

# ANAMIZU MACHI

特別対談 2018.8

## Special Conversation

### 「まいもん」あふれる穴水町の 新たな魅力をつくる



るさと会」を開催しております。関東一円では「東京穴水会」というのを年に一度開催しております。そしてその会に出席した時に人間には故郷が大事だという事を考えさせられたんです。穴水から都会へ行った人たちも子供の頃は野や山で遊んだ経験があるはずですし、そういう体験をその子供たちに体験してもらえるところを作りたいてと考えております。また、故郷の親御さんや兄弟を亡くされた方というのは故郷に帰りづらいと思うので、そういう人達も自由に帰って来れる交流の場をつくりたいです。

## Chapter 02

### 新たにつくる、穴水町の観光スポット

坂下 穴水町ではボラ待ちやぐらが有名ですが、観光についての取

り組みについてお聞かせください。

町長 今言われましたようにボラ待ちやぐらは知られていますが、穴水町にはさしたる観光地がないんです。だから観光地がないんだつたらつくろうじゃないかという事で今取り組みを始め取り組んだのが先ほどお渡しした名刺にある能登長寿大仏です。大仏さんまでのアクセス道を整備したり、大仏さんの周りの環境を整備したりいろいろと取り組みしております。

坂下 正式名称が能登長寿大仏なんですか？

町長 もともとは能登大仏という名前がついていたんですが、この大仏さまを建立された方が百歳まで生きられたんです。それで長寿を願わない人は誰もいない訳ですから、能登長寿大仏という名前にしました。

尾蔵 ご利益がありそうです。今回、穴水を訪ねるに当たって、能登半島と伊豆半島を比べてみただけですが、能登半島のほうが古

い史跡が多くあります。

町長 能登半島は平家の落人が流されて来ていましたから、珠洲や輪島の町に行きますと平家の落人の跡が残っています。時国家という史跡はもともと平時国という落人の屋敷なんです。平家であることを隠すために平の苗字を捨てて、時国という苗字にしたんです。能登にはそういう名前がいろいろあります。

尾蔵 伊豆半島の天城峠には文化的遺産がいろいろありますけど、能登半島にもいろいろあるんですよね。穴水町や能登町など一つの自治体で観光を考えるのではなく、能登半島全体でそれらの史跡などをめぐるルートをつくれれば面白いと思います。

町長 知事からも「能登は一つにならんと駄目なんや。能登は一つでは駄目なんや。」とよく言われています。それで実は今年、北海道の釧路で成功しているという民間の観光連盟を視察するために奥能登の首長四人で行ってきたんです。そしてそれをモデルに奥能登観光協会みたいなものをつく

り、奥能登全体で取り組んでいこうと計画しております。

## Chapter 03

### 穴水の「まいもん」をいかした町づくり

坂下 今の観光のお話しにも結び

つくと思うんですが、穴水町にはイサザや、サザエ、カキなど「グルメ」にちなんだ物がけっこうあると思うんですが、「食」についての取り組みについてお聞かせください。

町長 穴水町には、珍味も含めていい素材がいろいろとあるんです。「能登ワイン」は能登空港の開港を記念して生産したんですが、もともと穴水は水はけが悪くブドウを育てるのに適した環境ではないんです。それが穴水で獲

れたカキのカキ殻を2〜3年野積みして塩分を抜き、さらにカキ殻を細かく粉砕してそれを畑に入れることで、水はけのよい、海のミネラルで肥えた土地になるんです。そういうことでうまくブドウとマッチングして能登ワインが完成したんです。それで毎年開かれていた産地ワインコンクールで今年も金賞、銅賞をいただくことができました。能登ワインは加熱処理や防腐剤を一切使用しない「生ワイン」として販売しているんで、その点が評価に繋がっているんだと思います。

古一 カキ殻を使った土壌改良ですが、法面を工事する時にも貝の殻を粉末状にして吹き付けています。そうすることで酸性だった

土壌が中性化されて植物が生えるんです。それからカキの繋がりで言え、私はカキまつりに毎年来ています。いつもすごい人出です。

町長 町の空き地をすべて駐車場にして会場までをシャトルバスで走らせているんですが、バスが渋滞に巻き込まれて動かなくなってしまうこともあります。それぐらい今では本当に大規模なお祭りにな

坂下 「まいもんまつり」は年に4回されているんですね。

町長 そうです。春はイサザ、夏はサザエ、秋は能登ワインと能登牛を出してやっておりますが、大成功をしているのは冬のカキまつりです。春のイサザはそれ自体食べて美味しいという訳ではないのですが、穴水では昔からいろんな



能登ワイン



能登長寿大仏は穴水町の新しい観光スポット

夏の陣・さざえまつり

春の陣・いさざまつり

まいもんまつり

秋の陣・牛まつり

雪中ジャンボかきまつり

冬の陣・かきまつり

り、大変な苦勞をしておるくらいなんです。



観光スポットとして整備されている大仏の周りの環境

形で食べておりまして、穴水のイサザ料理を楽しみに待っていてくれる方がいらつしやいます。

**古一** 先日テレビを見ていましたら、穴水町の「ボラ料理」について紹介されていましたが、すごく美味しそうでした。

**町長** ボラを食べるとい習慣があるのは石川県では穴水だけなんだそうです。それでボラという魚は一般的に臭みがあると言われてるんですが、穴水のボラは湾内にいるんですからまったく臭みがないんです。私は「洗い」や、照り焼きにした身をほぐしてお茶漬けのようにして食べる「茶飯」が大好きなんです。

**尾蔵** せっかく美味しいボラが獲れるんですから特産品としてカラスマをつくられたらいいかですか。

**町長** 日本の三大珍味の一つですよ。日本料理店や寿司店を営業している方たちは自分たちでボラの卵を使ってカラスマをつくっています。それから穴水ではナマコも獲れるんですから、コノワタやクチコをつくっているんです。



クチコを手にする町長

けど、量的にそんなに多く獲れないんです。

**尾蔵** カラスマは何回も干したりしないといけないみたいで作るのが難しいと聞いたことがあるんですが、だから価格が非常に高いんでしょうね。クチコも、イチヨウの葉2枚くらいで9千円ほどしますよね。

**町長** ちょうどクチコがあります。

**尾蔵** これは立派なクチコですね。しかし、クチコの食べ方は難しいですね。

**町長** 焼いたら駄目で多る程度でいいんです。

**尾蔵** その炙り具合がなかなか難しいんです。小松空港のお土産店では桐箱の中に綿をひいて売っていますが、多くの人は食べ方を知らないと思うので、食べ方のパンフレットなんかを入れておいてもいいと思います。

## Chapter 04

### 存続のために、穴水高校を能登一の進学校に

**坂下** 教育についての取り組みについてお聞かせください。

**町長** 穴水には県立の穴水高校があるんですが、十年ほど前に県

立高校の再編問題がありまして、穴水高校と門前高校が輪島高校に併合される計画があったんです。

それを何とか阻止しようと当時の校長先生たちと議論して、穴水高校を進学校にするという大号令をかけまして能登一の進学校を目指すことにしたんです。それで先生方にはつばをかけた、中学校や県の教育委員会にお願いに行くなどして力を入れて取り組みました。そうしたら、これまで金大に受かることはほとんどなかったんですが、一学年がわずか四十人か五十人の学校で金沢大学に二人、富山大学に七人合格したことがあったんです。そうかと言って金大に一人も受からない年もありますので、合格者数を安定させたいと思っています。

**尾蔵** ほお、それはすごいことですね。

**町長** また高校だけでなく、小中学校の教育にも力を入れておりまして、今では小学四年生から英語の授業がありますので穴水在住で海外の生活経験のある方に補助教員になってもらっています。そしてその方の発音がすごい良いもの

ですから生徒だけでなく先生にも教えてもらっています。そして、これらの取り組みが功を奏しまして小・中学生の学力も向上しております。小・中学校で毎年行っている全国の学力テストでは石川県が全国一位なんです。その石川県の小学校の中で穴水の小学校はこれまで五・六位だったんですが、今年はいつ三位になり、中学校は三年連続で石川県のトップになっているんです。ただ学力が上がってきてる中で、実は弊害も出てきて困っております。

**坂下** 弊害ですか？

**町長** 今年、穴水中学の卒業生は六十一人いたんですが、その内の半分は生徒が七尾高校に行くだけの実力が着いたんです。すると親も子供も七尾高校を志望しまして、穴水高校に入りたいという生徒がいなくなりました。それで中学校の先生や親御さんを説得して半分くらいの生徒さんが入学したんですけど、穴水高校の生徒を確保するのが大変でした。教育の効果が上がって来ていることは非常に喜んでいますが、学力が良いばかりにかえってよそ

## Chapter 05

### 財政再建のための穴水総合病院改革

**坂下** 医療や福祉についてはいかがでしょうか。

**町長** 医療福祉の件についてはですが、私はもともと政治や行政の経験がありませんでしたし、興味もなかったんです。ところが偶然に平成十七年の春に町の行政改革懇話会の委員会の公募があった

の地域の学校に行ってしまうことがあるんです。小さな自治体とは言え県立高校が一つもないのでは地域住民の方に非常に申し訳ないですから、穴水高校は何が何でも存続をさせたいと思っています。

んです。当時、町の財政が厳しいことは住民に漏れ伝わって来ていてまして、私も関心があったので応募したんです。それで公募枠では落選したんですが、各種団体の中から選出できる枠がありました。私は当時商工会の副会長だったんです。それから商工会や会長の薦めでその委員会に復活で入れたんです。それで第一回目の会合の時に私が委員会の会長になりました。町の財政が本当に厳しい状態であることを知り、町の財政を苦しめている原因の一つが穴水総合病院の経営の赤字だと分かったんです。かつては、非常に誇れる病院で全国の自治体から見学に来るほどだったんですが、平成十一年を境に赤字になってしまったんです。その原因の一つは厚生労働省の施策の失敗だと思うんです。それまで医学部の卒業生は習った大学の教授のもとで初期研修をしてきたんです。それがどこで研修をしても良いということになったんです。それから、石川県には金沢大学医学部と金沢医科大学の二校があるにも関わらず、ほとんどの研修医が石川県に残らなくなりました。それで、大学側も県内の自治体の病院に若い医者

を派遣できなくなったんです。すると穴水総合病院では医師不足になり、医師がいないと患者さんも来ませんから、ますます経営が苦しくなりました。おそらく全国の自治体の病院はどこも赤字が続いたんだろうと思います。それでまずこの穴水総合病院を建て直さないことには町の財政を再生できないものから、第一に病院の改革をさせていただきました。それで何をすれば良いか初めは分からなかったんです。ですから病院に関係するところはどこでも回って歩けと思いましたが、金沢大学の医学部や金沢医科大学も行きまして、日赤の本部まで行って何かいい知恵はないかということも訪ねました。

**坂下** 日赤の本部まで訪ねられたんですね。

**町長** たまたま日赤の副社長が石川県の厚生労働部長をされていた方で、その方を頼りにして訪ねました。その後も、金大の医学部や金沢医科大学に何度も通いまして、ある時、金沢医科大学の理事長に会って協力をお願いを申し入れることができたんです。



穴水総合病院

そうしましたら、医科大の付属病院の院長が中心になって面倒を見ていただけるようになり、今では当時の院長が理事長になられているものから非常にいい関係を築いています。それで金沢医科大学さんの協力もあり、おかげで病院の再生に成功しまして三年前から穴水病院も黒字化しています。百床しかない病院なんです。毎年三億前後の利益を上げるまでになりました。少しでも赤字を減らして健全な経営をするために、かつては177床の病院だったのを百床にまで減らしたり、最初の六年間で院長を三人変えました。それで三人目にして私と意見のあう院長が見つかり、今二人三脚で一生懸命に取り組んでおります。そして病院が黒字になりました。今まで病院の赤字のためにつぎ込んでいた四億、五億という町のお金を他の事業に回せるようになりました。私は政治や行政のことはまったく分らないです、病院のことも分かりませんが、これまで小さいながらも穴水でずっと商売をしてきました、あらゆる事業、あらゆる組織においてすべて商売の基本と同じだということが分かったんです。それで商売で

習った事を基にしながら町長として取り組んでおります。

**坂下** 病院の膨らんだ赤字を短期間で黒字化されたのはすごいことだと思います。福祉の取り組みについてはいかがでしょうか。

**町長** 福祉については、少子化対策に繋がる部分もあるんですが昨年からのすべての施策に先んじて結婚、出産、子育ての問題に取り組んで欲しいという大号令でやっております。私らの頃は一つの家の中で何世代も一緒に暮らしていましたが子供や孫守りは誰かに引き受けてもらうことができませんでした。また、子供にとっても大家族の中で育つことは教育の面でも良かったでしょうし、お年寄りも孫守りできることがうれしかったと思うんです。しかしながら、今は核家族のためにお母さんが一人で子育てをしなければいけません。だから親御さんがノイローゼになってしまつて、自分の子供に虐待をするようなニュースが増えていると思うんです。それでそういう事があつてはいけませんから、特に子育てを中心に取り組んでおります。

# Chapter 06

## 放水路によってなくなった洪水被害

**坂下** 近年全国的には地震や集中豪雨と言った災害が増えてきていますが、防災についての取り組みはいかがでしょうか。

**町長** 最近の穴水町での災害は十年ほど前の能登半島地震ぐらいだろうと思うんです。ですが、かつて昭和四十年の半ば頃までは梅雨の頃になると毎年毎年洪水が発生していったんです。役場の横に川がありますがこれはもともと昭和四十年代に洪水を解消するために放水路として造ったものなんです。町の真ん中にまで続いていて、これが完成してから一度も洪水が起きていません。ですが、



こんな大規模な工事を当時よくやれたものだなあと思っています。今だったら絶対に出来ません。私にやれと言われても、とんでもないお金がかかるでしょうし恐ろしくて出来ません。

**尾蔵** これだけの大工事となると莫大な費用がかかったでしょうね。

**町長** 当時、町の財政が破綻に近い状態になったのは事実です。しかし今振り返ればこの放水路のおかげで洪水がなくなりましたから、当時の町長さんは素晴らしい判断をしたと思います。とくに、当時の町長さんがそれまで支

援していた七尾市出身の代議士では力不足だということで、建設大臣や副総理を務めた宇出津町の益谷秀次さんに工事の協力をお願いに行かれています。そして、益谷秀次さんがそのお願いを引き受けてくれたおかげで、放水路が完成したんです。政治のしがらみの中で、当時の町長さんは非常に素晴らしい判断をされたと思つて感謝しております。住んでる住民の生活が何よりも大事ですからね。

**古一** 商店街に昔の洪水の写真もあつたんですが、かなりの水位だったんですね。

**町長** きつと昭和三十四年の大洪水時の写真だと思います。穴水、門前、輪島と集中豪雨で、穴水の町ではほとんどの家が床上浸水しまして、残念ながら六人の方が亡くなつていらっしゃいます。私は高校生で他の所に通つていたんですが、線路が流れてしまつて帰れなくなつてしまつたんです。それで復旧するまで輪島に行つて下宿しておりました。

**坂下** 私たち地質調査業協会

は防災に対しての調査などもしているんですが、協会に対しての要望などがございましたらお願いします。

**石川** 急傾斜地については県にお願いをしております、今では急傾斜地の工事はほぼ終わつていますが、あとは一部小規模な民家に直接被害のない所だけが残つています。いずれにしても住んでいる住民の安全が一番大事ですから、いろいろまたお願いする事があると思います。その時はまたよろしくお願ひします。

**坂下** はい、協力できることがございましたら是非いつでも声をかけていただけたらと思います。今日は一時間というお約束だったんですが、長い時間どうもありがとうございました。

**町長** いろいろと余計な話ばかりになつてしまつて申し訳なかつたです。

**尾蔵** いえいえ、興味深いお話を聞くことができました。本当にありがとうございました。



対談出席者 2018.8.31 穴水町役場にて対談

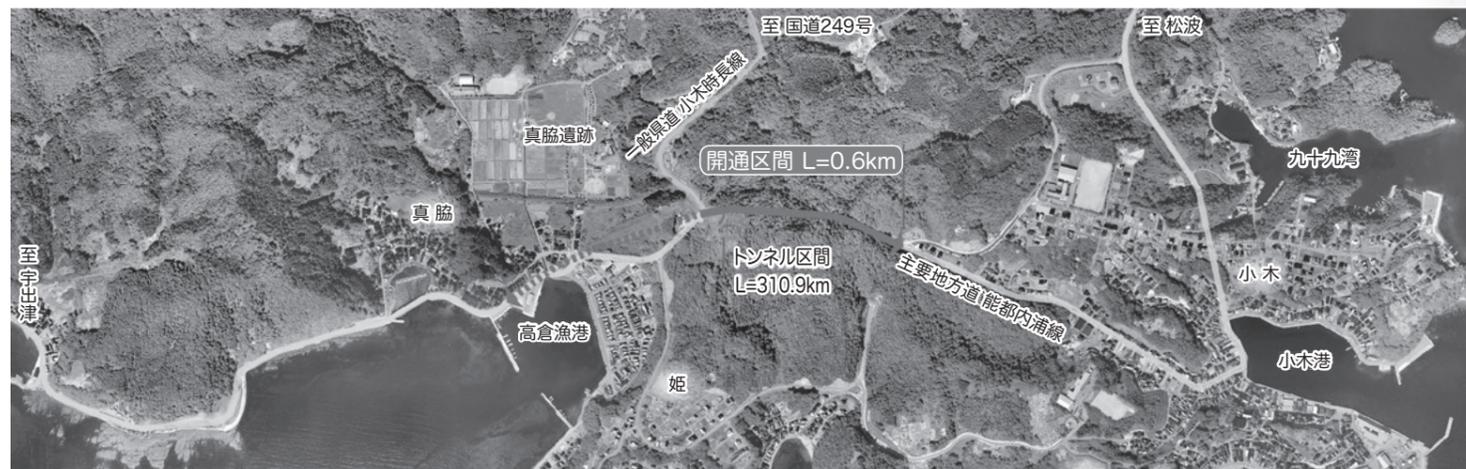
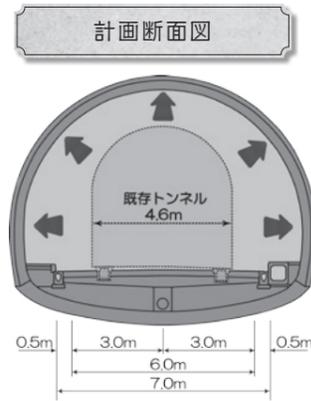
(一社)石川県地質調査業協会 総務・広報委員会副委員長 榎 博俊	(一社)石川県地質調査業協会 会長 尾蔵 博	穴水町長 石川 宣雄	(一社)石川県地質調査業協会 常務理事 古一 力	(一社)石川県地質調査業協会 理事 渡部 友則	(一社)石川県地質調査業協会 総務・広報委員会委員長 坂下 裕平
--	------------------------------	---------------	--------------------------------	-------------------------------	--



役場の横には放水路として造られた川が流れる

## 事業の概要

- 路線名：主要地方道 能都内浦線
- 事業区間：鳳珠郡能登町字真脇～小木地内
- 道路規格：第3種3級
- 延長：L=0.6km（うちトンネル部 L=310.9m）
- 幅員：W=6.0(8.5)m(トンネル部 W=6.0(7.0)m)



真脇トンネル開通により、以下の整備効果が期待されます。

1. 利便性の向上 大型車両のすれ違いが可能となるとともに、地域住民の利便性が向上します。
2. 安全・安心の確保 緊急輸送道路としての機能強化が図られ、緊急時の迅速な避難・救助活動を支えます。
3. 地域の活性化 真脇遺跡や九十九湾等、沿線の観光地へのアクセス向上、両地区の交流促進や連携強化が図られます。

能登内浦地域の安全・安心の確保と活性化に向けて

# 主要地方道 能都内浦線 真脇トンネル開通

行政の  
ママやき

G y o u s e i n o S a s a y a k i

はじめに



石川県奥能登土木総合事務所  
道路建設課長  
さの まさゆき  
佐野 雅幸

平成30年11月11日(日)、平成27年度に着手し拡幅整備を進めてきました主要地方道能都内浦線の「真脇トンネル」が開通しました。  
(主)能都内浦線は能登町宇出津を起点とし、同町宇松波に至る延長20.3kmの路線であり、沿線には真脇遺跡や九十九湾等の観光地が立地し、海岸線を巡る観光周遊道路であるとともに、旧能都町と旧内浦町を結び、第3次緊急輸送道路にも位置づけられている重要な道路です。  
真脇地区と小木地区を結ぶ真脇隧道は、昭和7年の完成から80年以上が経過し、老朽化が著しいうえ、幅員が非常に狭く(幅員4.6m)、観光バス等の大型車とのすれ違いができない状態であったことから、早期の整備が強く求められていました。

### 整備前 のトンネルの状況



**真脇隧道 (旧トンネル) について**  
真脇隧道は、昭和7年に竣工された、石川県内で4番目に古いトンネルで、当初は素掘り区間、木製支保区間、コンクリート覆工区間の3つの区間で構成されていました。その後、素掘り区間については吹付コンクリート覆工を施し、小木側から73.5mの間については、矢板工法にて幅員6.0mに拡幅しています。

建設から50年が経過した昭和60年には、トンネルの劣化が進み、木製支保とコンクリート覆工の区間を部分的にH-100の鋼製支保工を1.0mピッチで設置し、背面をコンクリートとモルタルで充填する内巻補強を実施しました。さらに平成11年にも、同様の内巻補強を実施しています。



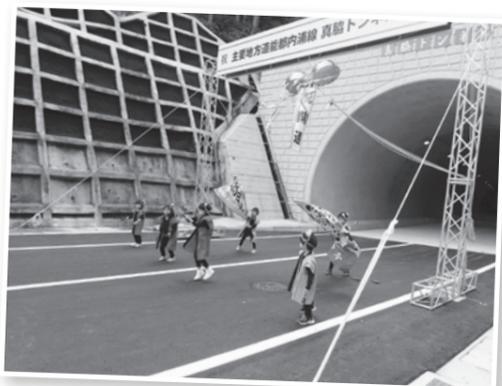
真脇トンネル位置図



園児による鼓笛演奏

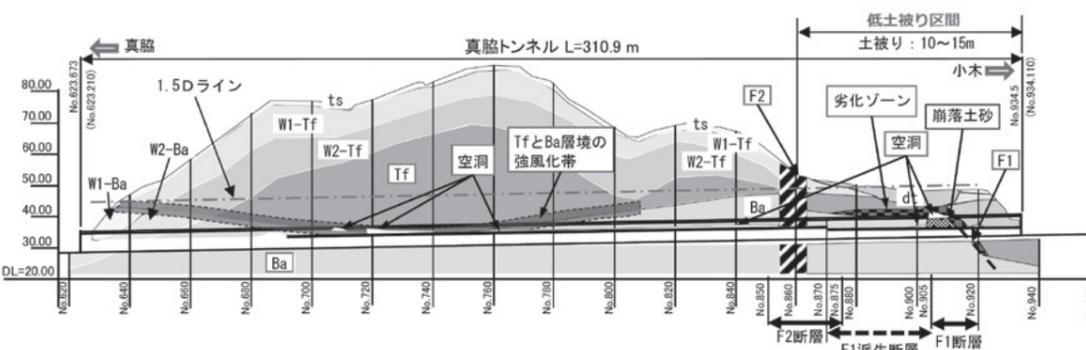
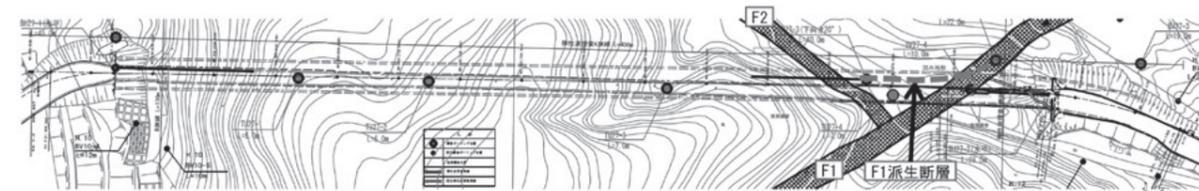


開通式典



児童によるよまこい踊り

整備後 の真脇トンネルの状況

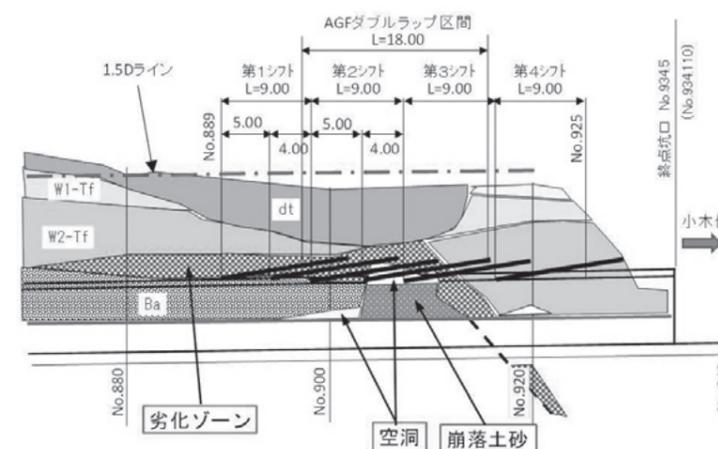


真脇トンネル地質地形図

(1) 既設トンネル覆工背面の空洞及び地山の緩み領域に対する対策  
 完成後86年が経過しており、旧隧道の周辺部は当初掘削による緩み領域が発達し、加えて、緩み領域の経年劣化により覆工背面には空洞が存在していました。この対策として、空洞に対しエアモルタルによる裏込注入を実施し、地山の連続性を確保することにより掘削時の緩み領域の拡大防止を図りました。

(2) 2つの断層と低土被り部における対策  
 2つの断層(F1、F2断層)と、トンネル縦断方向に派生した断層により、劣化ゾーンが不規則に存在していました。また、小木側坑口は軟弱な未固結の崖錐堆積物を含む10~15mの低土被り部となっていました。この対策として、当初設計でも注入式長尺先受工法(AGF)が計上されていましたが、崖錐堆積物(dt)が厚く堆積する区間は、掘削時の天端崩落や鋼管間からの土砂崩落の恐れがあることから、AGFを通常の半部のシフトで施工するダブルラップ配置を採用しました。これにより先受け効果の増大、地山補強効果が向上しました。

AGF 割付図



真脇トンネルは、全長310.9mで、既存のトンネルを拡幅(真脇隧道を囲むようにNATM工法にて施工)しています。事前の調査では、既設トンネル覆工背面の空洞及び地山の緩み領域(1)と2つの断層(2)が確認されたほか、地山からの湧水が想定され、これらの地山状況が拡幅工事の施工上の安全、品質に大きく影響することが懸念されたため、技術検討委員会を設置し、有識者を交えて、対策方法について検討を行いながら工事を行いました。

真脇トンネルにおける技術的課題と対策

(3) 地山湧水対策  
 既設トンネルのNo. 860から小木側では、地表面が集水地形であることや、断層帯の影響で湧水が多く、降雨時には流れ出るくらいの湧水が確認される箇所もありました。施工時の地山の安定、完成断面に対する水圧の低減を目的に水抜き工(L=6.0m、VP50有孔管5か所)を設置しました。また、地表面においては劣化部への浸透水を低減するために、コルゲートフリュームを配置し集水排水を行いました。

開通式・供用開始について

平成30年11月11日(日)には、谷本知事をはじめ、地元選出国會議員や県議會議員、地元関係者を含む約100名の方々に出席いただき、開通式が盛大に執り行われました。式典では、テープカット・くす玉開披が行われ、引き続き地元的小木こども園の園児による鼓笛演奏、高倉保育所の園児によるよまこい踊りが披露され、開通に華を添えていただきました。一般供用開始後は、完成を待ちわびていたかのように多くの地元の方々が車で往来し、新しく生まれ変わったトンネルをご利用されています。式典時にも地元の方から「いいがなったね」との声が数多くいただきました。

おわりに

今回の真脇トンネルの開通により、車の円滑な通行が可能となり、日常生活の安全性、利便性が大きく向上するとともに、災害時の迅速な避難や緊急車両の通行が確保され、地域の安全・安心にも大きく寄与するものと考えています。また、数ある観光名所へのアクセスも円滑になることで、広域交流が拡大し、さらには地域の活性化が図られるものと期待しております。最後になりますが、本道路の整備に多大なご尽力をいただいた関係各位にこの場をお借りしまして感謝申し上げます。



# 行政の まなやま Gyousei no Sasayaki ついにオープン! のと里山里海ミュージアム

タール)を含めて18.7ヘクタールとなる。公園の緑地帯の一部はすでに供用しており、地元のイベントや生涯スポーツの開催場所としてにぎわいを見せている。

能登歴史公園は、能登半島の基部を横断する呂知地溝帯の七尾市国分町地内に整備されており、周辺地域には能登国分寺跡や七尾城跡、須曾蝦夷穴古墳、国分尼塚古墳群、院内勅使塚古墳などの主要な遺跡が所在する。また、隣接する中能登町の雨の宮古墳群や小田中親王塚、川田古墳群、さらには信仰の山石動山など、能登を代表する史跡が密集する地域である。

## ミュージアムの概要

ミュージアムは、木造棟(管理・交流施設)とRC棟(ミュージアム施設)の二つの施設機能

を一体化して建てられている。運営は七尾市だが、施設整備は石川県と七尾市が共同で行った。

木造棟は、公園管理や能登の情報発信、飲食などの役割を持つ棟で、自由に出入りできるレクリエーションルームと学習室兼休憩室が備えられている。芝生広場を望む大型のガラスドアが開放的で、ゆったりとしたスペースでワークショップや講演会なども開催できるようにになっている。また、カフェコーナーでは、地元の食材を使った軽食や地元グッズなどが人気を集めている。

RC棟は、博物館機能を持つ棟で、常設展示室と企画展示室、シアター、資料整理室、収蔵庫、学芸室などが配置されている。屋外の展望台からは、隣接する能登国分寺跡が一望でき、北側に七尾市街地や能登島、東側に七尾城跡、北西側に国分尼塚古墳群などが遠望できる。

## エントランスと百景棚

エントランスは木造棟の正面入り口に設けられ、能登の情報発信拠点となっている。入口フロアには直径7メートルの能登半島のイラストマップ「のと空中散歩」が出迎えてくれる。能登半島の観光名所や史跡、景勝地などをイラストタッチで紹介し、来館者がさらに能登各地に足を伸ばすきっかけを促す。

圧巻なのは、ミュージアムに向かう通路の両側に設置された高さ4メートルの巨大な展示棚「百景棚」である。片側に能登半島に所在する各市町の特産品や代表的景観などを展示し、もう片側には、日本遺産のキリコ祭りやユネスコ無形文化遺産登録された青柏祭のデカ山行事など、日本を代表する能登の祭り文化を展示紹介し、「祭り王国能登」をダイジェストで紹介している。

## 能登立国1300年の節目

平成30年(2018年)は、養老2年(718年)に能登国が越前国から分離立国して1300年の節目にあたる。能登ではこの立国1300年を記念し、官民を問わず機運を盛り上げる様々な事業が各地で行われた。

この節目の年、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」をコンセプトとした「のと里山里海ミュージアム」(以下、ミュージアムと略す。)がオープンした。

ミュージアムは、自然・歴史・民俗など、多彩な分野の資料を展示する県内でも類を見ない施設である。見て、ふれて、楽しんで学べる「体験型ミュージアム」として市民の



のと里山里海ミュージアム  
館長  
和田 学

注目を集めている。また、地元の伝統文化などを次世代へ継承・育成する世代間を超えた交流施設としても活用される。

## ミュージアムの立地環境

ミュージアムは、能登国分寺跡に隣接する県営能登歴史公園(国分寺地区)のほぼ中央に建つ。能登歴史公園は、石川県が平成2年(1990年)にまとめた「能登風土記の郷整備計画案」に基づいて整備された都市公園で、平成15年(2003年)に開設した石動山地区と合わせた広域公園である。全体面積は60ヘクタールで、国分寺地区は七尾市が管理する能登国分寺公園(5.5ヘク

祭りコーナー





七尾城コーナー



里海コーナー

### 常設展示室

展示室は、里海と里山、七尾の大地、歴史、民俗、シアターのゾーンに分けられている。各ゾーンを代表する展示物が自然、歴史、文化の視点から学べる多面展示は、日頃何気なく食べている食材などの知られざる側面を知ることができる。

展示される多くの自然系資料は、七尾市少年科学館と野尻湖友の会の収集資料がベースとなっており、学術的にも貴重な資料が展示されており、新たな七尾の発見につながるのではないだろうか。

里海ゾーンでは、七尾湾の内と外の異なった環境に生息する魚介類とその漁法、養殖や栽培などについて学べる展示となっている。七尾湾の内と外に生息するアマモとガラモの生息環境とおおして、豊かな七尾の海を紹介する。また、実物の伝馬船や実際に使用されていた漁具、仕事着、大漁旗などからは、里海の暮らしを垣間見ることが出来る。

里山のゾーンでは、植物学者小牧旌(こまきせい)のコーナーを

設け、小牧氏が採集した能登の植物を検索学習できる。また、小牧氏が長年研究用に描き貯めた植物スケッチは、植物図鑑としても活用でき、緻密な研究の足跡を知ることができる。

町と里のコーナーでは、筵(むしろ)文化を自然と歴史の側面からとらえ、農村部での稲作から筵の生産、さらには七尾港から北海道への出荷など、筵をとおして農村と町のつながりを紹介する。

森と潟のコーナーでは、七尾市中島町塩津の唐島と三引町の赤蔵山、赤浦町の赤浦潟を紹介し、連続と受け継がれてきた自然環境とそこで営まれてきた歴史環境を紹介する。

また、能登に生息する昆虫の標本を収納箱のまま展示するトンネル状のコーナーも設け、できるだけ多くの標本資料を展示する工夫が

なされている。

七尾の大地では、市内の地層とそこで採集された化石類を展示し、地質的観点から七尾を紹介する。特に国内でも珍しいデスマスチルスとパレオパラドキシアの臼歯や巨大サメの歯などは必見である。七尾市小島町の岩屋化石層や津向町の大杉崎砂岩層、崎山地区から採取された多数のサメの歯や貝化石類、岩石などの展示から、数万年前の七尾を知ることができるコーナーである。

歴史コーナーは、縄文期から近代までを海をテーマとして紹介する。縄文時代の海岸線と現在の海岸線の比較と三引遺跡出土の櫂や貝塚を紹介し、現在奥まった場所が当時は入り江で豊かな生活が送られていたことを学べる。また、これまであまり知られていない国分尼塚古墳から出土した鏡や鉄製品、須曾蝦夷穴古墳出土の太刀の復元模型などが展示されている。

七尾城を学ぶコーナーでは、近年の航空レーダ測量のデータを基に詳細な地形を復元したジオラマが目玉を引く。正面と横にはARで簡単な歴史などが紹介され、七尾城の歴史が分かりやすく

学べるようになっていく。

壁面の展示コーナーでは、室町時代の守護吉見氏や戦国時代の織田信長の書状(複製)など、これまであまり目にできない古文書資料を見ることが出来る。

祭りコーナーでは、七尾の年間をとおして行われる祭りやお講などを紹介する。また、法被を着て獅子頭を持って獅子舞の囃気も楽しめる体験コーナーも設けられている。

シアターは、壁面と床面の二画面に映像が映し出され、迫力ある祭りや魅力ある七尾の景観などを体感することができる。

子供から大人までが楽しく学んで、交流できるミュージアムとなっているので、ぜひお友達や家族連れで訪れてみてください。



シアターの一場面

### 「のと里山里海ミュージアム」

- 住所 七尾市国分町4部1番地
- 電話 0767-57-5100
- 休館日 毎週火曜日・年末年始
- 開館時間 9:00~17:00
- 入館料 無料
- HP <https://noto-museum.jp>

### ミュージアム外観



Series Waga Machi 能登町



「わがまち」はココ!

Notocho

海、山、祭、  
こここそつばし能登町。

能登町とは

能登半島を左手に例えれば、親指の腹（爪側の反対）の位置にあるのが能登町です。  
人口は約1万8千人の小さな町で、豊かな自然を背景とした第



奥能登を代表する祭礼の1つ、能登町出津の「あばれ祭」(7月第1金・土)

1次産業が基幹産業です。農業では稲作をはじめとしてブルーベリーや能登牛、漁業ではイカ釣漁業と定置網漁業が全国的にも有名で、定置網で獲れたブリは「宇出津港のと寒ぶり」としてブランド化されています。また、1300年以上続く農村文化やあえのこと、キリコ祭りなど、伝統的な文化が多く残っています。そんな中、国立社会保障・人口問題研究所の推計が発表され、2040年には人口が1万人を下回り、さらに20年後の2060年には約4,600人にまで減少すると推計されています。

このことを踏まえて、平成27年に「能登町創生総合戦略」を策定し、人口減少・少子化・高齢化に対応した施策を実施することで、将来にわたって一定規模の人口を維持し、地域力の更なる向上を図り、未来の能登町を担う次世代の希望が叶うまちづくりを目指していきます。

農家民宿で月収40万円。  
集落に人を呼び戻そう

金沢市から北に約90キロ。車で2時間の能登町を中心とした山間部に点在する農家民宿群「春蘭の里」を訪れる修学旅行者が増えています。春蘭とはこの地に自生する春の花の名前です。黒瓦を基調とした大きな木造2階建ての家屋には、どの家にも昔ながらの囲炉裏が残っています。周囲には田畑が広がり、近くにコンビニや大型スーパーはなく、ホテルやカプトムシなど四季の生物が観察できます。体験メニューも豊富で、田植えや釣り、山菜採りなどの田舎体験に加え、日本遺産にも認定されている「能登のキリコ祭り」の疑似体験が人気を呼んでいます。契約を延長する学校も少なくありません。食事は地元で取れた野菜や米をふんだんに用いる



日本遺産に認定された「能登のキリコ祭り」を体験する大阪府の修学旅行者

**小木港イカ釣り船団応援プロジェクト**  
(全国からの力強い応援、支援品を贈呈)

中型イカ釣り船の主要な漁場となっており、能登半島の沖合約300キロの大和堆で近年外国籍の違法操業が活発化している、操業が妨害され漁獲量の減少が

続いています。  
苦境に立つイカ釣り船団を応援するため、「小木港イカ釣り船団応援プロジェクト」による支援品の贈呈式を行いました。  
このプロジェクトは町がふる



持木町長から山下久弥運営委員長に支援品が手渡された

能登高校魅力化プロジェクト

現在の能登町の人口は約1万8千人ですが、全国の市町村と同様に顕著な人口減少が続く中、児童生徒数も減少を続け、町内にあった3高校1分校は統廃合を繰り返して、平成21年に現在の石川県立能登高等学校1校になりました。町内で唯一となった能登高校

さと納税を活用して全国から寄附金を募り、イカ釣り船団を応援する支援品を贈る取り組みです。平成30年2月から同年4月末までの募集期間に目標額500万円を上回る計504万5000円が集まり、返礼品用の金額などを差し引いた338万7000円を使って支援しました。

平成30年5月16日に、乗組員の食料となる町のブランド米「能登姫」を含むお米1200キロと船上でのスルメイカの梱包箱7500箱、150万円分を贈りました。贈呈式では持木町長が多額の寄附に感謝した上で「これからも町はイカ釣り船団をバックアップして守りたい」と述べ、山下運営委員長が「全国の皆様の応援が励みになる。昨年以上の漁を目指して船団一同頑張ります」と意気込みを語りました。



公営塾「まちなか鳳雛塾」で受験勉強に励む中高校生

の開校にあわせて「能登高校を応援する会」が発足されました。能登高校の存続と末永い発展を目指すこの会は、高校や町、地元の様々な団体で構成され、制服補助や通学支援など生徒や保護者への様々な支援を行っています。

この取り組みに加え、平成28年には町が直接、地元高校に対して力になりたいと考え、能登高校魅力化プロジェクトを立ち上げ、取り組みの柱として公営塾「まちなか鳳雛塾」を設置しました。受験勉強だけでなく、地域の事を知る講座を設け、将来の町を担う人材育成を目的としています。地域の人材を地域で育てることを考え、地域に愛着を持つてもらおう取り組みを継続することで、町の未来を託せる人材が育つと考えています。

高校の存続は高校だけの問題

能登町ファン(交流人口)の拡大で町おこし

能登町の豊かな自然、伝統・文化、食など魅力的な地域資源を地域の皆さんと一緒にブラッシュアップすることで、他にはない「能登町オリジナル」を確立し、その本物を体験していただくこと



多くのお客で賑わう小木港イカす会イベント会場(石川県漁協小木支所)

今後多くの方に能登町を訪れていただけるよう、ニーズを把握し誘客活動を進めていきます。

能登町ファン(交流人口)の拡大で町おこし  
能登町の豊かな自然、伝統・文化、食など魅力的な地域資源を地域の皆さんと一緒にブラッシュアップすることで、他にはない「能登町オリジナル」を確立し、その本物を体験していただくこと

能登町ファン(交流人口)の拡大で町おこし  
能登町の豊かな自然、伝統・文化、食など魅力的な地域資源を地域の皆さんと一緒にブラッシュアップすることで、他にはない「能登町オリジナル」を確立し、その本物を体験していただくこと

また、「能登町まちづくり会」の活用により、修学旅行だけでなく、テニス等の全国規模のスポーツ大会、ゼミ・文化・スポーツ合宿の誘致にも力を入れていて、平成29年は全日本学生ソフトテニス大会(大学生の全国大会)を誘致開催し、全国から多くの学生の皆さんに訪れていただきました。



能登町ふるさと振興課係長 みのしま しんご 秦島 真吾



2019年夏  
開館に向け建設中  
谷口吉郎・吉生記念  
金沢建築館

「游心亭」広間の復元イメージ



「谷口吉郎・吉生記念金沢建築館」パース



金沢21世紀美術館や鈴木大拙館のような、個性的な現代建築も金沢の新しい魅力となっています。

Series  
WagaMachi

金沢市



「わがまち」はココ!

Kanazawa city

金沢の建築文化の  
魅力を発信!



金沢市経済局営業戦略部  
観光政策課 課長補佐  
おがわ まさこ  
小川 晶子

はじめに

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海まで、南は白山山麓から北の河北潟までの範囲にあって、地域の南部を白山山系から連なる山地が占め、北部は金沢平野を経て、日本海に臨んでいます。山と海、水と緑など、自然環境に恵まれています。

市街地は、寺町台、小立野台、卯辰山の三つの台地の間を犀川、浅野川の二本の川が流れており、起伏に富んだ地形となっています。この二本の川に挟まれた小立野台地の先端に金沢城が築かれ、城を中心に城下町として発展しました。市内中心部には、藩政期の町割りや用水網が残っており、城下町の風情を今なお感じることができます。

建築でめぐる金沢

幸いにも、大きな自然災害や戦災にあわなかったため、市内中心部には、藩政期の前田家ゆかりの寺院などの建築物や武家屋敷、そして明治時代のレンガ建築や洋館、大正や昭和の近代建築から最新の現代建築まで、各時代の様々な名建築が混在し残っています。こうした、金沢の特徴を生かして、金沢のまちなかのあちこちに残る、様々な時代の美しい建築物をめぐるツアーを「金沢アーキテクチャー・ツーリズム」と名付け、その魅力を国内外に発信しています。

金沢工業大学の水野一郎教授にご協力頂き、

各時代の名建築を徒歩や自転車で巡るモデルコースを設定し、日本語と英語のパンフレットやスマホサイトを制作したところ、国内外からの観光客の皆さんはもちろんです。市民の皆さんにも好評を頂いています。

平成30年度には、建築の専門家がガイドする建築まちあるきツアーを開催しました。私も、ツアーに参加しましたが、それまで何気なく見ていた建築物の設計や保存に、様々な創意工夫や苦勞があることなど、専門家ならではの視点

から、それぞれの建築物の見どころを教えて頂き、金沢の魅力を再発見する楽しい時間を過ごすことができました。今後も、このようなツアーを開催して、「建築のまち・金沢」の魅力をもっと多くの方に知って頂きたいと思っています。



建築まちあるきツアーの様子。専門家の解説を聞きながら、金沢駅鼓門や尾山神社など様々な時代の建築物をめぐる予定です。

新たな金沢の建築文化の発信拠点として

このような金沢の建築文化の魅力を発信する拠点施設として、金沢市名誉市民第1号の金沢出身の建築家・谷口吉郎氏の生家跡に、「谷口吉郎・吉生記念金沢建築館」を2019年夏の開館に向け、現在建設中です。吉郎氏のご子息である谷口吉生氏が設計した建物には、吉郎・吉生氏の建築資料を保存・展示するほか、吉郎氏が設計した迎賓館赤坂離宮和風別館「游心亭」の主和室と茶室を再現することとなっています。施設は、寺町台重要伝統的建造物群保存地区の入口に位置し、寺町台の斜面緑地の高台からの眺望を楽しめる立地にあります。自由に通り抜けられる通路を敷地内に設け、寺町と犀川の川岸を結ぶ歩行者の流れを生み出すねらいもあります。施設周辺

保存と開発の調和をめざす

藩政期から現代に至るまでの、様々な時代の建築物は、金沢市の貴重な財産です。今日、金沢のまちなかに、歴史的なまちなみが残されているのは、全国に先駆けて昭和43年に伝統環境保存条例を制定し、保存と開発の調和をコンセプトにまちづくりを進めてきた、先人の努力のお陰と思っています。寺町台という歴史的地区に新たにできる施設は、伝統環境にふさわしい現代建築となり、美しい建築が美しいまちをつくることを改めて実感できる施設になることと思います。

夏の開館を、楽しみにお待ちください。



寺町寺院群



にし茶屋街



Company

み 宮下建設株式会社

Post

代表取締役

Name

こいと のぶひろ  
越渡 伸廣

NOBUHIRO KOTO



TWEETS by

BOSS

[社長のつぶやき]



曹洞宗大本山総持寺

当社は、700年の歴史を誇る曹洞宗大本山総持寺、ソフトボールと蕎麦が有名な山と海に囲まれた自然豊かな門前町にあります。平成18年2月に輪島市と合併をし、約50年続いた門前町から輪島市門前町に変わりました。

当社の創業は大正9年先代の大王であった宮下正雄が「宮下組」を創業しました。社章のいわれは、「宮下組」の「みんなの和」を大切にしようという意味合いで作られたようであります。

宮下組として事業を展開していた昭和34年8月26日早朝、奥能登を中心に集中豪雨による大水害に見舞われました。死者33名を出し、国の激甚災害に認定されるほどの災害であり、門前町内の橋は、すべてと断たれてしまいました。失ってしまったそうです。災害後に始まった復旧工事、当時はまだ人力施工の時代であったが、当社宮下組にはこの地域では初めてだと思われるブルドーザーを保有し

事業拡大のターニングポイントは昭和34年の集中豪雨による大水害



ており、災害工事で大きな力を発揮することになったそうです。この災害復旧工事をきっかけに、事業拡大し、昭和36年11年資本金800万円にて「宮下建設株式会社」を設立し、建設業、製材業、運送業、生コン製造業などを手懸け

ることになりました。昭和46年長男正一が県会議員に初当選し、代表取締役も先代から2代目の次男の正二に継がれました。昭和53年9月資本金2,000万円に増資し、総合建設業として、業種も土木、建築、地質業、港湾工事など拡大していきました。平成13年10月ISO9001の認証を取得し、現在に至っています。平成15年7月3代目社長として、先代から受け継いだ経営方針7ヶ条の中の、特に「健全性の保持」と「地域社会の繁栄に奉仕」をモットーに更なる事業展開を目指しております。今日、公共事業の削減により発注件数が減少しているが、これからも地域社会のニーズに応え、更なる地域繁栄に貢献していきたいと考えています。

# 当社の歩みは、門前とともに。



Company

能登建設株式会社

Post

代表取締役

Name

の こうじ  
矢野 好二

KOUJI YANO



TWEETS by

BOSS

[社長のつぶやき]

# 能登鉱山



石川県には、かつて小松市に尾小屋鉱山、遊泉寺鉱山、白山市に阿手鉱山、金沢市に倉谷鉱山、他、九谷鉱山、富来鉱山、瀬風鉱山、能登鉱山など、加賀から能登まで、ほぼ全域に渡り、金・銀・銅・亜鉛・鉛・硫化鉄・陶石等、多種多様な地域資源に恵まれた鉱山がありました。

古くは藩政時代より、加賀藩の財政や地域住民の生活を支え、明治大正昭和へと、地域経済の発展や近代化に大きく貢献し、長く隆盛を極め乍も、時代の変遷と共に閉山廃鉱に無きとなり、現在、小松市の尾小屋鉱山資料館や遊泉寺銅山跡のように、跡地に於いて歴史を顧みることができる施設もありますが、ほとんどの遺構は埋没し、近年、観光資源として整備しようとする動きが各地で相次いでいるものの、多くの閉山跡地は、眠った山のまま、残存物も年々散消の一途を辿っています。

正4年に良質の石膏脈が発見された能登鉱山は、大宝鉱業株式会社が大正12年に採鉱を開始、昭和10年頃には、年間3万7千tを生産、質量ともに東洋一といわれ、選鉱場から輸送の為の専用枕橋までの2760mの間、単線架空索道により運搬された自然石膏は、主にセメント原料として海上輸送され、最盛期には1500t前後の貨物船が同時に二、三隻入港し連日、浜は好景気で賑わっていたとの事です。約600人超の社員が従事し、50年以上に渡り地域と共に歩んできた能登鉱山ですが、他の多くの石膏鉱山と同様、鉱物の輸入自由化や、人工的に製造副生された化学石膏により、競争力が低下し、昭和44年12月29日に閉山廃鉱となりました。

能登建設株式会社は、能登鉱山の鉱体の確認や、新鉱床を探索する地質調査会社として大宝鉱業能登鉱業所のもと、昭和38年に創業を開始した経緯もあり、能登鉱山閉山の時の所長である先代社長より事業を継承して以後、毎年、創業記念日には、鉱山跡地に建立した能登鉱山記念碑に、全社員で参拝を行い、周辺地域の清掃ボランティアを続けて来ましたが、現地に立つ都度、その足下に広がる、閉山時に土砂で埋められてしまった地下140m、東西1kmの線上に、幾重にも分布している坑鉱体と、その長き歴史に思いを馳せています。

当時、能登鉱山の石膏鉱床の鉱石の大部分は、雪花石膏、又は、せん維石膏でしたが一部、透明石膏や雪花石膏の塊状良質鉱を産し、方解石の中でも単純な劈開と同じ菱面体の形態をした大きい方解石の結晶を産する石膏鉱山は稀で、地質を学ぶ学生や研究者も多く訪れたと先代より伝聞しています。閉山廃坑時、まだ50万t以上の埋蔵量はあるといわれた、貴重な地域資源も、地下深く眠り、豎坑跡が草木に覆われ消えていく現状において、自分の出来る事の一つとして、平成30年8月、会社設立55周年を機に、鉱山誌の増刷と、跡地に建つ能登鉱山記念碑の修繕を行いました。閉山後歳月が経ちましたが、往時を懐かしむ関係者も多く、秋には地元関係者と共に落慶法要を予定しています。

能登鉱山誌



増刷した鉱山誌

昭和10年頃には東洋一といわれた能登鉱山



里山及び里海清掃ボランティア



修繕した能登鉱山記念碑



## 読書の魅力

株式会社 日研技術  
はまだ しゅうへい  
濱田 修平



私の趣味は読書です。周囲の人に趣味は読書だと伝えると「嘘つくな」と言われるような性格の私ですが、昔から暇があれば学校の図書室に通い、校内年間レンタルランキング1位になって表彰されたこともあるくらい読書が好きです。

私が読書が好きで理由として一番大きいのが「本の中ではどんな自分にもなれる」という点です。皆さんも「こんなことしてみたい」「あんな風になりたい」といったことを考えたことはありませんか？現実の自分を変化させることは大変ですが、本の中の世界なら、読む本さえ変えれば「英雄」にもなれるし「パイロット」にもなれるし「科学者」にもなれます。私は昔から創造力豊かなタイプだったので、様々な本の中で様々な自分になることが楽しくて暇を見つけては読書に夢中になっています。

そんな私が一番好きな本が「三国志」です。まず三国志とは何かというと、中国の時代区分の内の1つである三国時代について述べた歴史書のことです。この三国志は、魏(君主:曹操)・呉(君主:孫堅)・蜀(君主:劉備)の三国が中国を支配するために戦うというものなのですが、三国時代を生きた様々な英雄に起きた出来事や活躍を本を通して見ることで、実際に口マンあふれる本だと思えます。皆様にもぜひ三国志に興味を持っていただきたいので、私が三国志の中で最も好きな武将とエピソードを紹介します。

私が最も好きな武将は蜀の「関羽」です。関羽は人並み外れた武勇を持ち、信義や義理を重んじたことから同時代の人々から賞賛を受け、後世の人々からは神格化され、「関帝」という神様として信仰されるほどの武将です。

関羽にまつわる私の好きなエピソードは、蜀が敵国である魏との戦いに敗北して仲間が離れ離れになってしまいい、関羽は魏の捕虜となりました。魏の君主の曹操は、捕虜にした関羽をどうしても部下にほしかったため、気を引くために色々な物を贈るのですが、関羽は全く喜ばず、唯一喜んだのが赤兔馬(せきとば)という馬をもらった時でした。なぜ喜んだのかというと、赤兔馬はとても速く遠くまで行けるため、この馬があれば離れ離れになった自分の主君の居場所が分かり次第、すぐに駆け付けられることができるからというものでした。この話を聞いた曹操は関羽の忠誠心に大いに感心し、関羽が主君の元へ向かって脱走した際も黙って見送ったそうです。

社会人となった今、学生時代と比べると自由な時間は減りましたが、それでも空いた時間があれば読書するようにしています。これからも読書で現実逃避しながら思い通りにいかない自分と向き合っていこうと思います。

## 国民の命を救う 救難隊の活動

株式会社 石川地質コンサルタンツ  
かずさ よりみつ  
数左 從光



私が住んでいる小松市には、航空自衛隊小松基地があります。F-15を中心とした戦闘機部隊は有名ですが、ほかには主にヘリコプターを中心とした救難隊という部隊もあります。

救難最後のとりでとも言われ、警察・消防などでは対応出来ない厳しい状況での救助活動に従事するべく、日々激しい訓練を行っています。私が救難隊の後援会活動を通じて体験したことや、部隊の活動内容などを紹介したいと思います。

### 埼玉県入間基地での体験搭乗風景



今回搭乗したCH-47J 輸送ヘリコプター



東京都心上空(白く見えるのが東京ドーム)



スカイツリーの真横を飛び、展望台にいる人はびっくりしたと思います。

### 小松基地にて見学



小松基地内格納庫にて、救難ヘリコプター UN-60J 見学中



飛行中は騒音が激しく、マイクを通じての会話になります。

近年多発する自然災害にも対処し、かけがえのない命を守るために救難隊は日々過酷な訓練を繰り返しています。



U-125 A 救難探索機



CH-47 Jのエンジンを検査



U-125 Aのエンジンを検査



訓練塔での各種訓練中の救難員学生



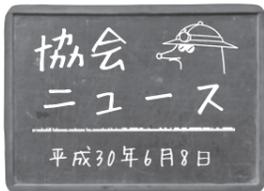
平成16年新潟、福島豪雨災害



空中受油訓練を行う UH-60 J



平成23年東日本大震災で被災者を空輸



# 労働安全衛生特別講習会



## 平成30年度労働安全衛生特別講習会 (ボーリングマシン運転業務)の開催

労働安全衛生規則によりボーリングマシンの運転に携わる者の特別教育が義務付けされています。

このため当協会では、法令に基づき下記のとおりボーリングマシン運転者の安全衛生特別教育を実施しました。

### 学科教育

日時 平成30年6月8日(金)9:00~17:00

場所 石川県地場産業振興センター

内容 ・労働安全衛生規則関係法令  
・ボーリングマシンに関する知識  
・ボーリングマシンに必要な一般的事項に関する知識

講師 東邦地下工機(株) 企画開発本部開発部  
次長 片山 浩明氏



### 実技教育

日時 平成30年6月9日(土)9:00~15:00

場所 (一社)石川県地質調査業協会 駐車場

内容 ・ボーリングマシンの運転、運転合図

受講修了者 22名



私が二十年ばかり嗜んでいる釣りについて話そうと思う。若い頃は四季を問わずルアー(疑似エサ)でスズキを狙ったり、エサ釣りでクロダイを狙ったりしていたが、最近では仕掛けも問わず、魚種も問わない、いわゆる「五目釣り」に遊んでいる。また近年は初夏から初秋にかけて数回程度、主に夜釣りを嗜んでいる。さて前置きはこの程度にして、私が好んで釣行する(自宅から比較的近い)ポイントを数か所案内したいと思う。

まず初めに紹介するのは志賀町の西海漁港。ここは能登外浦で屈指の大型漁港で防波堤直下でも十分な水深があり、底質は砂地や磯場などバリエーションが多い。小さなルアーを投げればメバルやアジの数釣りが楽しめる。秋にエギ(イカ専用のルアー)を投げればアオリイカが上がる。他の魚種では以前、夏の夜に餌釣りにて遠投をしたところ、コチ・ホウボウが上がって驚いた



こともある。続いて志賀町の福浦灯台(腰巻地蔵)。ここは全面に磯場が広がっており、若い頃はクロダイを狙って頻りに通っていたポイントである。しかし釣り下手なためにクロダイの釣果は寂しく、外道ばかり

る。この河口周辺は天井川である宝達川が吐き出した礫分や伏流水が影響しているのか、近隣の砂浜に比べて魚種が多いと思う。天候等の条件が良ければ良型のアジやイサギが上がる場合もある。以上で私の釣り場紹介は終了で



西海漁港  
福浦灯台  
宝達川河口

ENJOY FISHING



あるが、最近のニュースで金沢西防波堤を代表とする立ち入り禁止区域での釣り客が問題となっている。釣りは最も手軽な趣味の一つであるが、手軽であるだけにマナーや安全を軽視しがちな面も持ち合わせている。私はこの点を十分に注意しながら、今後も気楽な五目釣りを楽しみたいと思う。

## 釣り場紹介

北海技建 株式会社  
きむら やすし  
木村 康



# 担い手確保・育成推進事業 石の標本づくり in 白山手取川ジオパーク

10月20日の土曜日、石川県地質調査業協会と白山手取川ジオパーク推進協議会の共催により、「石の標本づく in 白山手取川ジオパーク」を昨年に引き続き開催しました。当日は抽選により選ばれた小学校4年生以上の児童とその保護者35組と、秋の河原で楽しく「石の標本づくり」を行いました。

参加者は先生・学生・留学生をはじめとしたスタッフから「石の見分け方」を教わり、河原の石をハンマーで割ったり、ルーペで観察したり、薬液を使ったりしながら「石の標本づくり」を楽しんでいただきました。

また、今年は開催に先立ち「となりのテレ金ちゃん30秒劇場」にも出演し、イベントのPRを行いました。

最後になりましたが、イベント全般にわたりお世話になりました白山手取川ジオパーク推進協議会の皆様、金沢大学の先生方や学生・留学生の皆様、当日のスタッフとしてご協力いただきました北陸地盤工学研究会や石川県自然史センターの皆様、この場を借りて深くお礼申し上げます。



となりのテレ金ちゃん30秒劇場でPR

開催日：平成30年10月20日（土）10:00～12:00

場所：手取川の河原「道の駅しらやまさん」

主催：（一社）石川県地質調査業協会・白山手取川ジオパーク推進協議会

協力：金沢大学理工学域地球社会基盤学類地球惑星科学コース・石川県自然史センター・北陸地盤工学研究会

後援：金沢市教育委員会、北國新聞社、テレビ金沢

参加者数：72名（子供37名、大人35名）

スタッフ：32名

## 石の標本づくりレポート



大学の先生による石のお話し



はじめの説明



開催挨拶



続々と集まる参加者の皆さん



親子で楽しく石の標本づくり 大学生と一緒に石の採集



魔法の水（塩酸）を使った石の判定



ハンマーで石割り体験



先生に相談



インスタ風フレームも作りました

スタッフで記念撮影



参加者・スタッフで記念撮影



石の標本づくりを楽しむ親子と作業をサポートするスタッフ

# 安全パトロール

## 平成30年度 安全パトロールの開催

当協会では、現場における災害事故防止及び、安全衛生管理の向上を目的として、下記の2箇所にて調査ボーリング現場の安全パトロールを実施しました。

本年度は川の調査、山の調査と現場状況の違う箇所でのパトロールとなり、その現場毎が持つ安全に関する着眼点を持ってパトロールができました。その後のミーティングでも指示事項、奨励事項があり、安全対策の知識が高まりました。

実技教育

日時 平成30年9月20日 10:00～16:00

場所 会員事業所現場 2箇所

参加者 技術・安全委員 3名



# 経営者研修会



[演題] 「石川県の地震リスクを考える」  
[講師] 金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系教授  
ひらまつ よしひろ  
平松 良浩氏

[プロフィール]

1968年に滋賀県に生まれる。  
1991年神戸大学理学部地球科学科卒業。  
1996年京都大学理学研究科地球物理学専攻修了、博士(理学)を取得。同年より金沢大学理学部助手として勤務。  
現在は金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授。



専門は地震学。地震や重力異常のデータに基づき、地震の発生過程や活断層、地殻・マンツルの構造、白山の火山活動などを研究している。石川県防災会議震災対策部会委員、白山火山防災協議会委員、白山手取川ジオパーク推進協議会学術委員等を務める。

## 平成30年度 経営者研修会

金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授の平松良浩先生をお迎えし、研修会を開催しました。

「石川県の地震リスクを考える」の演題で、日本で地震が発生する原因に始まり、石川県で過去に発生した震災のデータや、今後発生することが予想される地震について、詳しい解説をいただきました。そして、実際に地震が起きたときの企業の事業継続プランについてもお話いただき、大変参考になりました。

石川県の地震リスクが決して低くないことや、災害時の事業の継続が地域の復興につながることを、改めて認識させていただいた、貴重な講演でした。

日時 平成31年1月25日(金)  
場所 金沢東急ホテル  
参加者 37名

# 技術講演会



## 平成30年度 技術講演会の開催

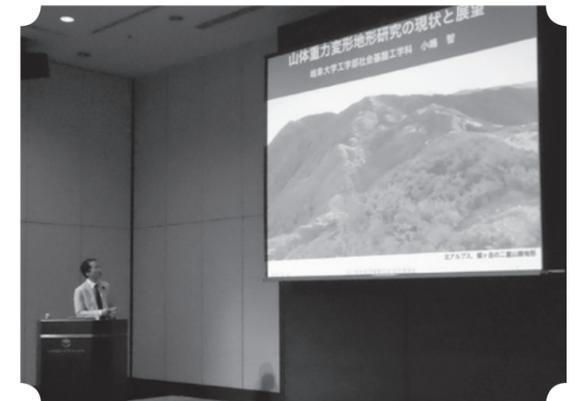
公益社団法人地盤工学会北陸支部との共催で、お二人の先生から地盤に関わるご講演をいただきました。小嶋先生には、美濃山地における二重山稜地形に関わる研究結果とその苦労話を、西澤先生には、舗装に関して、破損のメカニズムや予測、海外での道路試験に基づく設計法についてご講演頂きました。今技術講演会には、当協会会員をはじめ、総勢93名の技術者の皆様にご参加いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

日時 平成30年10月26日  
場所 金沢東急ホテル  
参加者 93名

プログラム

### 01 「山体重力変形地形研究の現状と展望」

岐阜大学工学部社会基盤工学科  
教授  
こじま さとる  
小嶋 智氏



### 02 「舗装の長期的挙動の予測法とその課題」

石川工業高等専門学校  
環境都市工学科 教授  
にしざわ たつお  
西澤 辰男氏



おかげさまで創立20周年。

これからも

大地を測る技術を  
研ぎ続けていきます。



イメージキャラクター  
「りくぼう」

地すべり・土砂災害の観測・監視のことなら

**S** 株式会社 測商技研北陸

〒920-0058 石川県金沢市示野中町2丁目85 Web : <http://www.sokuhoku.co.jp>  
TEL : 076-232-3900 FAX : 076-222-3334 Email : [info@sokuhoku.co.jp](mailto:info@sokuhoku.co.jp)

## “地すべり対策に”

### 抑止杭

鋼管杭

Gパイル

深礎杭(ライナープレート)

新日鐵住金株式会社

株式会社クボタ

日鐵住金建材株式会社

### 堰堤

鋼製自在粧

日鐵住金建材株式会社

### 土留壁

鋼製簡易土留壁

同上

### 集水井

ライナープレート

同上

### 水抜

ビニールパイプ

積水化学工業株式会社

### ポリFRP管

さく井用ケーシングパイプ

株式会社 栗本鐵工所

### N.S.T.スクリーン

株式会社 日さく



上記製品取扱店

株式会社 **辻さく**

Tsujisaku Co., Ltd.

取締役社長 辻 亮一

〒921-8555 営業本部 金沢市増泉5丁目1番地30号  
TEL (076) 243-7731 FAX (076) 243-3876

富山営業所・小松営業所・能登営業所

TEL(076)432-5310 TEL(0761)21-7077 TEL(0768)52-8585

許可番号 石川県知事 許可(般-26)第2391号

# 会員名簿

平成31年1月1日現在

一般社団法人 石川県地質調査業協会

〒920-0059 金沢市示野町西7番地  
TEL(076)267-3244  
FAX(076)267-3271  
https://www.ishikawa-geo.or.jp  
E-mail info@ishikawa-geo.or.jp

## 正 会 員

役員	会社名	代表者	郵便番号	住所	電話番号	FAX
監 事	アルスコンサルタンツ(株)	瀧上 彰	920-0362	金沢市古府2-76	076-248-4004	248-4174
	(株)石川地質コンサルタンツ	数左 従光	920-0059	金沢市示野町西3	076-213-8151	213-8153
監 事	(株)エオネクス	市山 勉	920-0209	金沢市東蚊爪町1-19-4	076-238-1181	238-9781
	(株)カナイワ	普輪崎 賢彦	921-8027	金沢市神田2-9-19	076-244-6447	244-6407
理 事	興信工業(株)	室谷 信子	927-0624	鳳珠郡能登町字時長45-65	0768-72-1223	72-1224
	国際地研(株)	松村 徹	920-0017	金沢市諸江町下丁428	076-237-5758	237-4356
理 事	(株)大一開発	河上 公輝	929-0326	河北郡津幡町字清水ト312-2	076-288-4595	288-3474
理 事	中部地下開発(株)	渡部 友則	920-0205	金沢市大浦町ハ51-1	076-237-5000	237-0600
	中部地質(株)	能島 利一	921-8061	金沢市森戸1-228	076-240-7887	240-7757
理 事	東亜鑿泉工業(株)	吉田 良雄	925-0022	羽咋市深江町ヲ36-2	0767-22-3155	22-3241
	(株)日研技術	芝山 修	921-8015	金沢市東力4-21	076-291-8180	291-5010
副会長	能登建設(株)	矢野 好二	927-1454	珠洲市三崎町宇治ヨ部129-1	0768-88-8800	88-8811
	(株)のとさく	明星 加守暢	927-1215	珠洲市上戸町北方い部31-1	0768-82-0111	82-6126
常務理事	古一地下開発(株)	古 一 力	926-0831	七尾市池崎町む部70-1	0767-57-3700	57-2600
	(株)ホクコク地水	尾蔵 博	921-8021	金沢市御影町25-1	076-241-7158	243-2422
会 長	北海技建(株)	高木 仁志	925-0014	羽咋市釜屋町/44-2	0767-22-6618	22-6268
	宮下建設(株)	越渡 伸廣	927-2151	輪島市門前町走出3-50	0768-42-1138	42-1344

## 賛助会員

役員	会社名	取扱商品	代表者	郵便番号	住所	電話番号	FAX
監 事	(株)辻さく	鋼管・鋼材・ビニール管・各種動力ポンプ	辻 亮 一	921-8555	金沢市増泉5-1-30	076-243-7731	243-3876
	(株)測商技研北陸	各種地すべり測定器・気象観測機・各種精密測定器製造販売管理	館 中 憲 次	920-0058	金沢市示野中町2-85	076-232-3900	222-3334
	東邦地下工機(株) 金沢営業所	ボーリングマシン・ポンプ・ミキサー・小口径推進器・各種付属品	河内 弘 志	920-0016	金沢市諸江町中丁161-1-102	076-235-3235	235-3240
	(株)ドゥーイング	ポスター・パンフレット・カタログ・DM・チラシ・ホームページ制作	橋田 望 生	920-1155	金沢市田上本町ヲ22	076-254-1780	254-1790

TOHO

TOHO drilling equipment ロックボルト専用機

# エアーキッド

(AK-01型)

NETIS旧登録番号QS050008-V

## ST集排水工法

NETIS旧登録番号HR990020  
地すべり対策の排水・集水工事の新工法として地下水の効率的な排除を考慮した新工法

## 全エアー掘削

全エアー駆動方式で掘削が可能のため、ランニングコストを削減！  
エアーホース配管のみで作業開始が可能、段取時間短縮に大いに貢献！



試錐機 DO-D型



# 東邦地下工機株式會社

東京・札幌・仙台・新潟・金沢・名古屋・大阪・松山・広島・山口・福岡

金沢営業所 金沢市諸江町中丁161-1-102 TEL(076)235-3235 FAX(076)235-3240

土質試験のことなら ISO 9001:2008 認証取得

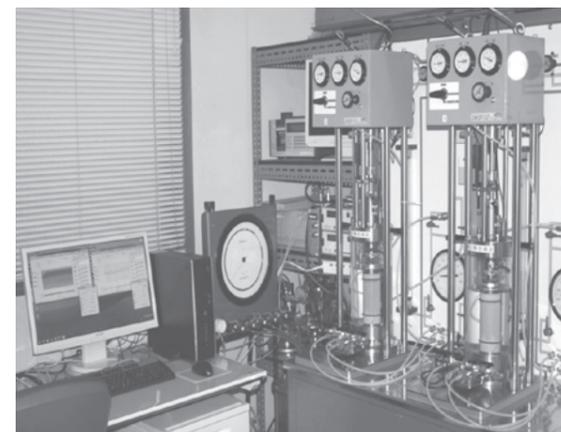
# 協同組合土質屋北陸

(旧石川県土質研究協同組合)

北陸初

# 土の繰返し非排水三軸試験機

各種土質試験電子納品対応済(国交省、農水省、石川県、NEXCO各社)



DOSHITSUYA HOKURIKU

—たとえるなら土のソムリエ—

確かな土質情報をサポートします。

理事長 市山 勉

〒920-0059 石川県金沢市示野町西7番地

TEL (076) 268-4666 FAX (076) 268-4510

ホームページ <https://www.doshitsuya.or.jp>

メールアドレス [info@doshitsuya.or.jp](mailto:info@doshitsuya.or.jp)

# 編集後記

ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION



地質いしかわ第73号をお届けいたします。

昨年の冬は豪雪に見舞われ、早朝からの除雪や、渋滞の中での移動等に、大変な思いをされた方も多かったと思います。今年は暖冬という言葉をよく聞きましたが、実際にも1月半ばの現時点で金沢周辺の平野部に積雪はほとんどありません。このまま降らずに春になればいいなと思いつつ、一方で地球温暖化、異常気象・・・などという言葉が頭を過り、複雑な思いもします。

本誌の編集に委員長として携わるのも2年目になりました。至らないところが多く、ご不便をおかけしたことが多々ありました。そんな無力な委員長でありながら、この2年間に無事に務めることができたのは、ひとえに積極的に活動していただいた総務・広報委員の皆様や、支えていただいた理事の方々のおかげであり、心からお礼を申し上げます。また、大変ご多忙の中、特別対談にお時間を割いて頂いた穴水町の石川宣雄町長を始め、ご寄稿頂いた皆様に、改めて深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

総務広報委員長 坂下 裕平



## EDIT MEMBERS

2019  
January

No.73



### 総務・広報委員会

担当理事	古一 力	古一地下開発(株)
担当理事	渡部 友則	中部地下開発(株)
編集長	坂下 裕平	中部地下開発(株)
副編集長	榊 博俊	中部地質(株)
編集員	畠中 信英	(株)エオネックス
編集員	北市 忠	(株)石川地質コンサルタンツ
編集員	松村 英樹	国際地研(株)
編集員	日比 輝夫	(株)大一開発
編集員	山下 真広	東亜鑿泉工業(株)
編集員	島田 清司	能登建設(株)
編集員	高野 裕久	(株)のとさく
編集員	松原 和之	古一地下開発(株)
編集員	中村 有宏	(株)ホクコク地水
編集員	四十物 良三	北海技建(株)
編集員	宮下 正久	宮下建設(株)